



三気の門

PORTAL SANKI

NO. 5
2026.5.7
文責：佐藤正一

生徒の主体的な活動を育てる

～生徒がつくる歓迎会・修学旅行説明会～

私が保見中に赴任して早4年。赴任から「考えて行動する」「生徒主体の授業」と言ってきました。4年経って、生徒の自主性が育ってきたなと感じる場面を多く見ることが出来ます。4月23日(木)に行われた新入生歓迎会は、生徒会メンバーを中心に非常に盛り上がりました。そこでもよく考えられたゲームやトーク。場を盛り上げる演出など、生徒会のメンバーが優秀ということもありますが、参加した生徒もノリがいい時は乗る。指示されたらそれ以上に考えて動く姿が見られ、スムーズに進行していくのがすばらしかったです。

私からもバンジージャンプやドリアンを食べるエピソードを出して、「先輩や後輩、そして新しい友達をつくるときには、『ちょっとした勇氣』が必要なんだよ」という話をしました。10mの高さから木の蔦のロープを足首に縛り付けて飛び降りるとある部族のバンジージャンプやめちやくちゃ臭いドリアンを食べる勇氣よりも「簡単だよ」という話でしたが、勇氣という点では、人によっては「小さくない」かも知れません。いずれにしても主体的に動くには、「勇氣」も必要です。4月24日に行った修学旅行説明会は、さらに進化していました。生徒が説明をするのです。聞けば、旅行内容から生徒の意見を反映させて計画しているとのこと。



【チームの運命をかけたジャンケン勝負】

ここまで育ったかと感激しました。自分の言葉で語れる能力は、生きていくうえで重要な力です。授業参観後の校長の学校経営説明会で、「推薦で合格する生徒を50%から70%に上げる」と話しましたが、合格するには「自分の言葉で夢を語る」力が必要です。そんな力を一層育てていきます。